

佐賀市総合計画審議会 第1回くらし・環境分科会 議事録

- ◆ 日時
令和6年6月27日（木）15:00～17:00
- ◆ 会場
ホテルマリターレ創世 佐賀 3階 グラツィアホール
- ◆ 出席委員（敬称略、五十音順） ※◎は分科会長
有田武史、◎猪八重拓郎、内川実佐子、大江登美子、かくもとしほ、上赤博文、北原奈津紀、筒井洋平、内藤正隆、溝上良雄
- ◆ 欠席委員（敬称略、五十音順）
高田理世
- ◆ 事務局
坂井総務部長、稲又都市戦略部長、江頭建設部長、宮崎環境部長、上野総務部副部長、豊田都市戦略部副部長、梶山環境部副部長、馬場環境部副部長、福田都市政策課長、溝口交通政策課長、澤野道路整備課長、栗山河川砂防課長、中島生活安全課長、一ノ宮上下水道局総務課長 外
- ◆ 傍聴者
なし
- ◆ 議事要旨
 - 1 開会
 - 《説明》
 - 次期総合計画と次期総合戦略の概要に関する説明（事務局）
 - 《自己紹介》
 - 各委員・事務局の自己紹介
 - 2 議事
 - (1) 政策「生活・環境」「防災・安全」「都市・交通」について
 - 《説明》
 - 「生活・環境」に関する説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

「生活・環境」の概要について、事務局から説明があった。この内容について、ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

「生活・環境」のリード文について、「自然保護」というフレーズがあるが、近年のトレンドを踏まえると「自然環境の保全」の方が適していると考えます。

2040年に目指す市民等の姿のうち、「自然と動物と共存するまち」というフレーズについては、植物の観点が抜けているので、「自然と生物と共存するまち」に変更することが望ましい。

また、主なポイントについて、外来生物の記載はページ右側の取組方針に同様の記載があるので、記載不要ではないか。主なポイントの構成としては、1つ目に「佐賀市の多様な生態系を知って理解すること」、2つ目に「佐賀市の自然を理解した上で自然環境を保全すること」とするのが良いと考えます。

市民アンケートにおいて、佐賀市の良いところとして自然が挙げられているが、佐賀の自然は全国ワースト4位で、平地も山も開発され尽くされており実際のところ自然は少ない。佐賀は田舎だから自然が豊かであるとステレオタイプに思い込んでいるところがある。情報を発信する立場として、当然このことは知っておくべきであり、この実情を知った上で、佐賀市に残された素晴らしい自然を保全するという文面が望ましいと思う。

○事務局

いただいた意見の反映については、他とのバランスを見ながら今後検討していきたい。ご指摘いただいた、佐賀の自然を知り、保全するという趣旨をいかに表現して記載するのか、また個別に相談させていただければと思う。

○委員

昨年、水素基本戦略が改定され2040年を目処に水素エネルギーの活用を拡大していく方針が定められている。これを踏まえて、P46の「1脱炭素が当たり前の社会実現」の⑤の文章において、「研究」に留まるだけでなく、「普及」や「活用」といった記載にする方が望ましいのではないかと。

○事務局

水素の活用について、連携している事業者との対話の中では、今後の活用方針等が不

透明なこともあり「研究」という表現に留めていた。「普及」「活用」の表現への変更は今後検討したい。

○委員

2の項目内の④について、3Rの取組は従来進めてきたことと思うが、サーキュラーエコノミーの考え方について計画に盛り込んでいいのではないかと考える。近年では環境省においても、循環経済の方向性を示した工程表が示されている。

○事務局

サーキュラーエコノミーについては、ご指摘のとおり内容として盛り込みたいと考えているが、市民には伝わりにくい概念であるため、市民目線でも分かりやすいような形で入れたいと思う。

○委員

豊かな自然が最初からあるわけではない。先人たちが何十年もの間に築いてきた背景があり、これまでの過去と背景を知った上で、どのように自然の豊かさを伸ばしていくかという考えた重要だと思う。

○委員

先ほどの委員の意見に賛同する。今の佐賀の自然を知り・親しみ、これからも保全していくというような記載がいいのではないか。

また、2040年に目指す市民等の姿では「自然や動物」と記載されているのが、主なポイントで「動植物」になっているため統一させるべきではないだろうか。

《説明》

○「防災・安全」に関する説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「防災・安全」の概要について、事務局から説明があった。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

「防災・安全」の分野については全体として分かりやすい言葉が並んでいて良かったと思う。

P50に記載のある河川清掃活動について、自治会では河川清掃活動をしているが、近

年は高齢化していて清掃活動の継続が困難になってきている。今後のことを見据えると、若者等を巻き込む施策や取組を計画内で謳うべきではないか。

○事務局

河川清掃活動について、年々、活動者が減っているのが実情である。一方で地域企業が独自に河川清掃活動をしてきている。こういった企業の力を借りつつ、担い手不足を解消するためにパートナーシップの登録制度を設けている。

○委員

また、地域の安全について、防犯カメラについての説明があったが、現在も防犯カメラの推進しているのか。実際に企業等が個人的に設置している防犯カメラが犯人逮捕につながったことがある。佐賀市に以前、防犯カメラの設置についてお願いをしたことがあるが、個人負担で対応して欲しいとのことだった。防犯カメラの設置については市として推進していくのか、それとも個人に委ねるのかお聞きしたい。

○事務局

佐賀駅、佐賀駅バスセンターに計 32 台設置している。また、昨年度末から自動販売機の売上金をもとにして防犯カメラを設置する制度を設けている。今後も拡大していく予定である。

○委員

自主防災組織や消防団においては、高齢化に伴う担い手不足が 1 番の課題で、今後の 10～20 年後を見据えると、先の河川清掃活動もしかり、自主防災組織や消防団といった組織を充実させていくことが、地域のコミュニケーションや共助につながっていく。そのため、いかに若者を巻き込んでいくかが重要となると考える。

2040 年に目指す市民等の姿の「市民は、防災・危機管理体制の充実を実感し、安心して暮らしている」について、一市民として考えると、「防災・危機管理体制の充実を実感」は行政のハードとソフトの整備だけでなく、地域の自主防災組織の活動などの充実も含めた、行政と地域の防災体制の充実を実感するという両面での意味として捉えていいのか。

○事務局

消防団、自主防災組織の担い手不足は課題と認識している。どうすれば市民の皆さんがご自身のこととして捉え、担い手を増やすことができるかは継続して検討していきたい。

河川清掃活動は 50 年以上続けてきた佐賀が誇る住民運動であり、企業を巻き込ん

だ新たな力の活用について説明をさせていただいたところである。他にも、例えば関わった企業については市の入札において加点制度を設けるなど、企業や地域と連携した形で活動を継続しているところである。

また、「市民は、防災・危機管理体制の充実を実感し、安心して暮らしている」についての指摘は自助・共助・公助を全て含んだ意味合いを意識しており、お見込みの通りである。

○委員

私はゴミ拾いのボランティアに取り組んでいる。活動をしていると、つまりやすい側溝やゴミがたまりやすいスポットをご存じの方がいたり、夜中に1人で帰っている中高生に声かけをするなど、他分野の活動が防災や防犯につながることもあったりしていて、自治会長などの地域の役職に就いていない人でも、地域のことをよく理解し、貢献している人もいる。役職がある人やある一定の分野の人だけが集まるコミュニティではなく、地域の困りごとを地域住民のみんなと一緒に解決していくような情報共有の場があればいいのではないかと思う。

○事務局

地域内のことはまちづくり協議会を結成し、地域のみなさんで様々な活動を行っている。横の連携についても、まちづくり協議会同士でのつながりはある。今後はさらにスーパーアプリ等を活用して、つながりの強化をしきたいと思う。

○委員

災害の見える化について、どこまで浸水したのかなどを示す標識があれば安心・安全につながるのではないか。

また、災害に強い建物づくりも重要。水害があっても耐えられる建物づくりが必要である。公民館は平屋建てが多い。ハザードマップで見ると、浸水想定3m区域内にあるものが多い。対策が必要だと思う。

○事務局

標高に対して、潮高がどこまでくるのかが示されているところはある。しかし、ご指摘のとおり過去に浸水歴を示す標識は多くはない。ただ、リアルタイムでの浸水状況はホームページ状で把握できるようにしている。今後、市民にもっと情報を見ていただけるように、普及させていきたい。

《説明》

○「都市・交通」に関する説明（事務局）

《意見交換等》

○分科会長

ただいま、「都市・交通」の概要について説明が行われた。ご意見、ご質問があれば伺いたい。

○委員

居住地から 10 分～15 分圏内に便利な施設があることはとても魅力的だと思うがイメージができていない。市民に移動を促すのか。それとも住宅街に機能や施設を移していくのか。確認させていただきたい。

また、空き家のリフォームについては、インスペクションなど、耐震性や安全性の担保についての記載が必要ではないか。安全性の担保をせずに危険な空き家をリフォームするという風にも読み取れる。

○事務局

居住を誘導する区域と、都市機能を誘導する区域の両面のアプローチでまちづくりを進めていく。このことについては、立地適正化計画の中で詳しい考え方を示している。

空き家について、危険な空き家と危険でない空き家がある。しっかり仕分けをして、危険な空き家は除去、危険でない空き家は活用していく方針を考えている。また、診断を実際に行って、昭和の家を今風にアレンジするとどうなるのかをシミュレーションする新規事業としてあげている。

○委員

歩道について、駅北はバリアフリーが進んでいるが、駅南はまだ手つかずのように感じる。また、歩道がボコボコしているところが多く、ベビーカーや車いす、杖をついた高齢者が歩きにくい歩道になっているため、その整備についても計画内に盛り込んで欲しい。

○事務局

歩道の問題について、人口減少という課題を見据えても子育て世代等が歩きやすい歩道をつくるのは必要だと考える。ご指摘の内容は総合戦略の取組みの中で示していきたいと思っている。

○委員

佐賀市は坂道が少ないため自転車が走りやすい環境を整えるのが良いのではないかと。

自転車で安全に周遊できるようなゾーンを充実させる。オランダのような車社会でなく、自転車社会を目指すという方向性も良いと思う。

○委員

佐賀市はすごくいい街。ポジティブなものをもっと伸ばしていくという考え方も良いと思う。また、空き家を集落のような形で、アトラクションみたいな形で活用できないか。また、デザイン性の高い建物を建設するなどもいいのではないか。

佐賀市はポイントで良いところがあるが、各事業者同士の横のつながりが弱いと思う。

また、計画の中で具体的なものが見えてきてもいいのではないか。

○分科会長

具体的な内容は総合計画ではなく、各個別計画の中で示していければなお良いと感じた。また、委員から自転車の話もあったが、自転車についての個別計画も整理されている。

3 閉会